２０２２年　９月号　　関東学院六浦こども園

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ（エレミヤ31:21）

人になれ　奉仕せよ

聖　　句：	動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。　（コリント信徒への手紙Ⅰ　15：58）
保育目標：	０歳児　・色々な物事に興味をもち、繰り返し試してみようとする。 １歳児　・周りの保育者や友だちとやりとりを楽しんで、のびのび過ごす。 ２歳児　・やってみたいことを思いきり楽しむ。簡単な身の回りのことをやってみようとする。 ３歳児　・気の合う友だちと好きな遊びを楽しむ。身のまわりにある秋を見つける。 ４歳児　・友だちと一緒に遊ぶ中で楽しさや難しさなどを味わい、心をかよわせる。 ５歳児　・友だちと時や場を共有して遊ぶ。季節や自然を感じ、五感を使って楽しむ。

今年は一段と暑さの厳しい夏でしたね。園では、水浴びやかき氷などで涼をとり、夏ならではの暑さを満喫しました。ご家庭で過ごされていた皆さんも、今年は久しぶりに遠出をしたり、お泊りをしたりして過ごすことができた方も多かったのではないでしょうか。

さて今年は「きらめくいのちのギャラリー」を無事に開催することができました。暑い中、園に足を運んでくださりありがとうございました。ご都合や体調などの理由で参加出来なかった方もいらっしゃるかとは思いますが、これからも引き続き子どもたちのきらめく瞬間をお届けできればと思っております。

夏休みのある日の出来事です。つばめ組のＹ君が、幼児園庭にある小さめのやぐら（Ｙくんの身長ほどの高さ）の前に立っています。私を見て、何かつぶやくと走って椅子を取りに行き、踏み台にして登ろうとしている様子です。「Ｙくん、椅子で登ると危ないよ」と伝えると、「やあだ！」「ダメ！」と言うＹくん。そこで、私が登って見せたり、やぐらにぶら下っている友だちを見たりして、「棒（柱）もあるね。」などと少しヒントになることを伝えてみました。でも、Ｙくんは、台にちょっと手をかけては「できない～」「やって～」と、やめてしまいます。

その後も私とＹくんの「手伝って～。」「出来ないんだぁ。」の攻防戦は続き、Ｙくんはどんどん悲しくなってしまいました。「他に木とか、登れそうなところに行ってみる？」と誘って、一緒に園庭を探しましたが、よい高さの場所が見つからず、大きな木の前で再び「できない～」というＹくん。

しばらくして急に、Ｙくんが真ん中の大きな山に登りだしました。『気持ちがかわったのかな？』と下で見ていると「見て！できた！」といつも登っている山のてっぺんでポーズをしています。「本当だ、できたね。」と応えると、次は「あれのぼろ！」と太鼓橋へ。すると今度は「あっ」と言って、一本橋の一本目にまたがり「見てて～」と少しだけ進み地面から足を離して「ほら、おっきい！」と私に笑いかけてきました。そして最後に、また最初のやぐらへ向かい、登れなくても今度は足を掛けようとし、懸垂のようにぶら下がって見せると、少し得意げな顔をして、Ｙくんはその遊びを終えました。

最初私は、Ｙくんはきっと挑戦したい気持ちがあふれているのでは？と思い、やぐらに挑戦している時も、私は泣いているＹくんのそばにいて、その気持ちをどう解消できるのだろう？と思い、少し頑張ればＹくんが登れそうな場所はどこか？と、探してしまいました。でもＹ君と一緒にいるうちに、私の想いとは違うところにＹくんの想いがあることに気づきました。

Ｙくんは自分の気持ちを立て直していたのではないでしょうか？そして、自分の力で遊びの終着点を見つけたＹくん。やぐらが【出来ないかもしれない？】じゃなくて、【出来るかも？】という新たな気持ちで挑むことができたのは、きっと少しずつの「出来た」が積み重なったからでは…と感じました。

日常の遊びの中での「やりたい！」という思い、そして、自分の力で少しずつ経験した「できた」の気持ちを重ねていく中に、子どものチャレンジの種がちりばめられているのだということを、Ｙくんの遊びから改めて感じました。これからも、子どもの表しを丁寧に読み取り、日々を大切に過ごしていきたいと思います。

乳児主任　　星野　陽子